

のぞいてみよう！ せんだいの歴史

暮らし編

伊達政宗と花

仙台市博物館 副館長 樋口 智之

第15回

現在、仙台では第四〇回全国都市緑化仙台フェアが開催されており、メイン会場の青葉山公園追廻地区には大きな花壇が設けられ、色とりどりの花が植栽されています。そこで、今回は伊達政宗の花への関心について取り上げてみたいと思います。

伊達政宗の芍薬愛好

政宗と花との関わりについては、朝鮮出兵の際にその土地の梅を持ち帰り、仙台城に植えたというエピソードがよく知られています。また、政宗が大悲願寺(東京都あきる野市)を訪れた際、庭に咲く見事な白萩に感嘆し、株分けを望んだというエピソードもあります。

そして、ここで紹介したいのが、政宗が芍薬に熱を入れていたというエピソードです。例えば、松倉重政という武将に芍薬を所望する手紙では、好みの品種の名を挙げて、早く頂きたいと急かしています。

逆に、公家の勧修寺光豊からは、政宗の所有する芍薬が京都では見ることのできない珍しいものなので分けてほしいと懇願されています。

このほか、徳川家康や秀忠に仕えた鷹師・太田信盛のもとに、政宗は家臣を派遣して芍薬の栽培法を学ばせたことも最近の研究で指摘されています。

このように、政宗はこのほか芍薬を愛好していました。当時、京都では皇族・公家・町人を問わず、芍薬の栽培・観賞が盛んに行われており、京都の文化に敏感だった政宗も影響を受けたのかもしれませんが。

描かれた園芸品種

植物の栽培と観賞が盛んになると、絵画に描かれる植物も、園芸によって生み出されるさまざまな品種が描き分けられるようになります。政宗が建立した瑞巖寺本堂の孔雀の間の襖絵には、芍薬について十種ほどの品種の描き分けが確認できます。花の傍らには、「かまくら」などの品種名を示す墨書も残されています。

この描き分けには、政宗の意向が反映されて



菊花図屏風(部分) 仙台市博物館蔵
余白には政宗が詩歌を書き入れている。

いる可能性も考えられます。また同じく政宗建立の大崎八幡宮の石の間の天井画には、いろいろな花とともに複数の品種の菊が描かれ、やはり「たいはく」などの品種名を示す墨書が残されています。

ところで、六月十八日まで宮城県美術館で開催中の展覧会「伊達政宗と杜の都・仙台」において展示されている「菊花図屏風」は、政宗が晩年を過した若林城の襖絵の遺品の一部とされています。これもまた当時栽培されていた園芸品種を描いた可能性があります。

園芸と絵画、両者は一見離れた分野に思えるかもしれませんが、けれども園芸においては、栽培する人や観賞する人の美意識が植物の選定、配置、育て方に投影されますので、もともと造形芸術とも親和性は高いのです。

花々が咲き誇る緑化フェアと併せて、絵画作品が展示される本展もぜひご覧ください。



仙台市博物館の最新情報は、ホームページでご確認ください

宮城県美術館
で開催中!!!

4/26
6/18

水
日

伊達政宗と
杜の都・仙台

仙台市博物館の名品
— 仙台市博物館の開催記念 —

第40回全国都市緑化
仙台フェア開催記念

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶ 博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索 ▶ お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
▶ 博物館ツイッター @sendai_shihaku TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。